



議会改革

私から提案して実現できたこと

- 本会議や委員会が始まる前に議題をネット公開すること
- 本会議や委員会終了後には資料もネット公開すること

会議が始まる前に、議題すら区民に事前公開されていなかったことに驚き、私から、諮問事項として議会運営委員会（議運）に提案をあげ、全会派一致の賛同を得、実現することが出来ました。

他には、傍聴者への資料提供や、区議会だよりの魅力アップの提案をしましたが、実現には時間がかかりそうです。



近く、板橋区議会として取り組む予定の議会改革

- 予算決算の総括質問のネット中継
- 議会報告会

引き続き、全ての委員会のネット中継の実現、そして、PCやiPadの導入によるペーパーレス化の促進、身近な地域での議会報告会の実現等、議会の様子が気軽に把握出来る仕組みづくりを進めたく、提案をあげていきます。ITが活用出来る世代は十分にその技術を活かし、逆にITの利用が出来ない方には紙資料を無償で配布出来るようにするなど総合的視点での取り組みを目指してまいります。



公共の担い手の情報を集約をし常設の掲示コーナーを

区役所南館建て替えに際して、NPO、各種ボランティア団体、町会・自治会等の公共的団体の情報を集約し、把握できる掲示コーナーを常設でつくることを提案しています。新しい公共を推進する板橋区として、どれだけの公共的団体の方々と、まちづくりをしているのか見える化ができ、協働の推進や創造力の強化につながるのではないでしょうか。また区役所を訪れた住民にとっても活動に参加したり活動を知るきっかけとなります。



暴力団排除条例に反対しました。

暴対法につづき、暴排条例が制定されました。暴排条例は、「暴力団と関わらない」など、一般市民を規制するものです。法律に人間関係を強制されるのはおかしくないでしょうか。また、暴力団関係者と決めつけられてしまった場合にはどうすれば良いのでしょうか。また、表面的に暴力団が減っても、地下組織化するだけです。私は、暴力団という身分で罰せず、悪いことをしたその行為に対して罰すべきと考え、反対しました。

視察報告

高齢者の生きがいづくり、介護予防の事例として、兵庫県稲美町を視察

稲美町では、「①すぐ近くに集う場所をつくること、②住民自身が企画・運営ができる環境にすること、③役に立てる喜びを感じてもらうこと」を大事にしながら、地域の人の出番や役割づくりを進めていて、全国平均を上回っていた要介護認定率が平成21年度には、全国平均16.2%のところ稲美町では14.7%と全国平均を下回る結果が出ているとのことです。また、「集会所の建物は、自分たちで購入して、メンテナンスもしている」とのこと。板橋区がお金を払って集会所を管理運営するのは大きなギャップがあります。ここから学ぶことは大きくあるように思います。



富士ゼロックスのフューチャーセンターを視察

現在、区が進めている聖域なき事務事業の見直しには限界があり、事業の縮小を招くばかりです。そこで、一般質問でも提案したのがフューチャーセンターです。フューチャーセンターとは、簡単に言うと未来志向の対話と実行の場です。オランダやデンマークの公共機関でも導入されています。板橋区でもフューチャーセンターを導入し、部や課、役職を超えて対話の場を持ち、あくまで各人の持つ新しいアイデアや機能に着目し、未来のあるべき姿を共有した上で区政運営を進めるべきと考えています。縦割りを改めることで、出来る工夫は数多くあるのではないのでしょうか。



財)市川房枝記念会 女性と政治センターにて講演しました。

2012年8月7日、8日で開催された、若い女性のためのチャレンジセミナー「バーチャル議会へようこそ」にて、東大教授宇野重規氏とクロストークをしました。これをきっかけに、記念会の企画運営委員となり継続して関わっています。議会の約半数が女性議員のノルウェーの子育てや働き方の事例を勉強した際に、女性の社会進出の必要性を大きく感じました。日本も半分が女性議員になったら子育てや介護、働き方はいかに変わるのでしょうか。皆さんにも是非、考えてみて欲しいです。

